

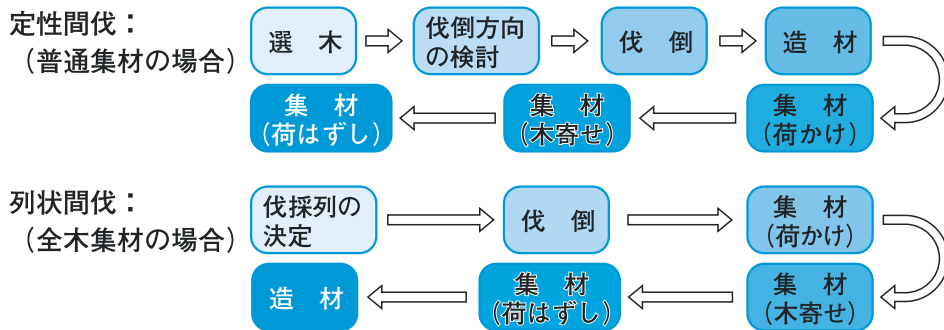
安全な間伐作業のための留意事項(新規就業者のために)

間伐作業とは

人工林を適正に管理する大切な仕事のひとつが、間伐です。過密状態の森林は健全な木が育たないだけでなく、林地に陽が当たらず草も生えにくいいため、表土は雨で流され、土砂崩れや洪水などの自然災害にもつながり問題となっています。間伐とは、成長過程で過密となった森林に対して、立木の本数を調整するために行うもので、健全で活力ある森林を育成するために不可欠な作業です。

間伐方法の中で、木の形質に重点を置いて、あらかじめ伐る木を決めて行う間伐が定性間伐です。基本的には、不良木から順に伐って優良木を残します。一方、列状間伐は、斜面の上下に沿って機械的に列状に間伐を行うものです。高性能林業機械等によって、より安全で効率的に間伐作業ができる方法といえます。

定性間伐と列状間伐の標準的な作業工程の流れは以下のとおりです。



間伐作業には危険がいっぱい

間伐作業には、常に危険が伴います。間伐は間引き作業であることから、伐倒木はかかり木になりやすく、これまでも不適切なかかり木処理で多くの災害が発生しています。そのため、間伐手遅れ林での作業では、かかり木の発生を少なくするのが重要な課題です。

間伐作業は、大きく分けて伐倒、造材、集材、運材など工程が多岐にわたり、使用する機械も多種多様です。作業者が自分の安全作業の確保に務めることはもちろんですが、他の作業者との同時作業や連携作業となることも多く、作業者がお互いの作業内容を理解し、確実な連絡合図が大事です。また、現場の作業条件は毎日少なからず変化します。常に安全で合理的な方法を考えながら作業することが大切です。さらに、指差し呼称の習慣を身につけ、危険な時、場所、場合には、いったん作業を中止することが大切です。

ここでは、間伐作業のうち、伐倒作業、造材作業、集材作業の安全のための留意事項について記述します。

作業現場での確認事項

現場の班長は、始業前と終業時に、その日の間伐作業に必要な連絡事項や、安全作業の確保に必要な事項などについて確認を励行します。また、作業者は使用する機械や備品の点検などを行い、その結果を点検簿等に記帳し班長に報告するようにします。

作業手順書の作成

作業を安全かつ能率的に行うためには、基本的な手順を定めておく必要があります。これを実践することが法令でも義務づけられています。作業手順書の内容については、作業員も一緒になって作り上げるようにします。また、作業員はあらかじめ作業手順書を理解し、全員が同じ手順に基づいて作業するようにします。

初心者のエラー

初心者は「仕事が見えない」と言われます。次のようなことを自覚しましょう。

- ① 同時にいろいろなことをやろうとして、混乱を起こしやすい。
- ② 何が重要な情報が選択ができないため、混乱を起こしやすい。
- ③ 熟練者のように手足がひとりで動くような操作ができない。
- ④ 危険が予測できないことから、作業に迷いが生じ動作が遅くなり、判断や操作に乱れが生じやすい。
- ⑤ 知識不足、技能不足であることが多い。
- ⑥ 他の作業員が近くで行っている作業まで気が回らない。

技能習得に当たっての初心者の心構え

- ① 「なぜ今、熟練者はこんな動作をするのか」など、熟練者を常に観察する。
- ② 「今の作業は全体のどの辺をやっているのか」「他の作業員はどの辺りでどんな作業を行っているのか」など、作業の流れをつかむ。
- ③ 技能を身につけるためには、きちんとした熟練者からきちんとしたことを「習って」「慣れる」こと。
- ④ 作業現場で危険を感じとり、安全だと判断したことをやるように心がけ、「危険予知能力」を高めるように努力する。

合図の方法

- 複数の作業員が安全に作業するためには、相互の合図が不可欠です。
- 特に集材作業は、スイングヤーダや集材ウインチのオペレータと先山の荷かけ者との連携作業なので、安全確保のためにも常に連絡合図を十分に行う必要があります。
- 合図の方法は、必ず作業前に作業員同士で確認しておきます。